

イタリア語読書会

アレッサンドロ・マンゾーニ 『汚名柱の記』を読む

Alessandro Manzoni

Storia della colonna infame

「1630年6月21日の朝4時半ごろ、カテリーナ・ローザという卑しい女が、不幸にも、[...] 黒い外套をまとったひとりの男を目にした」
歴史小説『いいなづけ』で知られる19世紀イタリアの文豪マンゾーニによるノンフィクション『汚名柱の記』は、裁判記録をもとにして、ペストの蔓延するミラノで起きた冤罪事件を再構築し、過去になされた不正義を告発する。マンゾーニ渾身の歴史作品は、優れて今日的な問題を孕んでいる。

過去、その誤り、その悪は、決して過ぎ去りはしない。ゆえに我々は、本当に歴史主義者たらんとするなら、現在においてその過去を生き、判断せねばならない。[...] 拷問は今も存在するし、ファシズムは常に存在するのだ。——レオナルド・シャーシャ



「モーラは拷問にかけられた」

参加を希望される方は、お気軽に担当者までご連絡ください。

日時：水曜（隔週）18:15-20:15

初回オリエンテーションは**5月27日**に行います。

場所：総合研究2号館 第11演習室

外国語支援プロジェクト

http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/gaikokugo/gkp-top_page/

対象：

中級以上

簡単なイタリア語の文章なら既に読めることが望ましい。

なお、初級向けには、夏季休暇に特別講座を実施する予定です。

テーマ：

イタリア文学

歴史小説

歴史叙述

裁判・拷問の歴史

冤罪事件

言語的リアリズム

担当者：

霜田洋祐

イタリア語学イタリア文学専修 OD（専門はマンゾーニ『いいなづけ』）

文学部科目イタリア語初級4時間コース講師

申込方法：

gaikokugo@bun.kyoto-u.ac.jp

へメールして下さい。